

令和6年度林木育種成果発表会を開催

令和7年2月21日(金)、令和6年度林木育種成果発表会を開催しました。今年度もオンラインで開催とし、国、都道府県、民間企業や研究所等から、222名の方の申込みがありました。

発表会は、東京大学大学院農学生命科学研究科生産・環境生物学専攻の岩田洋佳教授から、「育林DX：データ駆動型育林システムの開発」と題した特別講演、また、徳島県立農林水産総合技術支援センター資源環境研究課森林資源・鳥獣担当の藤井栄専門研究員から、「徳島県の実生スギコンテナ苗安定供給に向けた取組」と題した特別報告をそれぞれいただきました。



東京大学大学院農学生命科学研究科
岩田教授



徳島県立農林水産総合技術支援センター
藤井専門研究員

特別講演の岩田教授からは、カラマツを対象にデータ駆動型の育林システムを構築し、デジタルフェノタイピングを含む計測・モデル化手法を開発したこと、その結果、効率的なデータ収集・管理が可能となり、計測技術と解析手法の統合によって新たな可能性が広がることについて発表がありました。

また、特別報告の藤井専門研究員からは、「花粉の少ない苗木」の安定供給体制構築に向け

た、スギ採種園における最適な管理の模索や苗木生産者の育苗技術の向上を促すといった、徳島県における取組を紹介いただきました。

続いて、林木育種センター・森林バイオ研究センター・育種場の研究者から、次の7課題について発表しました。

○令和6年度の品種開発

育種部 育種第一課 育種調査役 大平 峰子

○気候変動適応のためのスギ耐乾性品種の開発

育種部 育種第一課 課長 能勢 美峰

○クリーンラーチ採種園での球果採取適期の解明に向けた取組

北海道育種場 育種課 研究専門員 生方 正俊

○東北育種基本区におけるマツノザイセンチュウ抵抗性育種の取組

東北育種場 育種課 課長 井城 泰一

○ネイチャーポジティブの達成に向けた林木ジーンバンク事業での取組ー絶滅危惧種オガサワラグワの保全研究ー

遺伝資源部 保存評価課 特性評価研究室

主任研究員 遠藤 圭太

(代理発表 保存評価課長 倉本 紀嗣)

○南西諸島におけるテリハボク育種研究の取組について指導普及・海外協力部 西表熱帯林育種技術園

園長 三浦 真弘

○「ゲノム編集技術」を使い「木質の形成」を理解する

森林バイオ研究センター 森林バイオ研究室

主任研究員 高田 直樹

発表後の質疑応答では、今後のエリートツリーからのさらなる少花粉スギの開発の見通しについて、スギ耐乾性品種の生産地域と成長量、カラマツ種子採取時期の適期、マツノザイセンチュウ抵抗性品種のランキングの活用方法、体細胞キメラについてなど多くの質問をいただきました。気候変動対策、花粉発生源対策などについて、林木育種に対する社会的ニーズが益々高まっています。成果発表会における講演や皆様からのご意見、ご要望等も踏まえながら、さらに研究開発を進めて行く考えです。

(企画部 育種企画課 長谷部 辰高)

表紙タイトル写真

スギのゲノム編集の過程で用いる組織培養技術 (不定胚培養)



間伐材用紙を使用しています



この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

林木育種情報 No. 48

令和7年3月31日発行

国立研究開発法人 森林研究・整備機構

森林総合研究所林木育種センター

〒319-1301 茨城県日立市十王町伊師 3809-1

TEL : 0294-39-7000 (代)

FAX : 0294-39-7306

ホームページ <https://www.ffpri.affrc.go.jp/ftbc/index.html>